



6月第3日曜日は「父の日」ですね。「父の日」は、アメリカ人のソノラ・スマート・ドッドが、「母の日」を知り、男手ひとつで育ててくれた父のために、1909年に「父の日」を制定するように提唱したのが始まりです。日本に一般的な行事として伝わったのは、1980年代になってからのことです。

母の日といえば、カーネーションの花をプレゼントしますが、父の日の花は何かご存じでしょうか？正解は「バラの花」です。

父の日の提唱者のソノラが父の日に父親の墓前に白いバラを供えたことが始まりと言われています。今年の父の日はバラをプレゼントしてみるのはいかがでしょうか。

DUCTILE TIMES編集部



【 鞆管(呼び径1000)

本管呼び径700の施工状況】

基幹管路の新設・更新工事にDXR工法はいかがでしょうか

老朽化した基幹管路のバイパス管や相互連絡管等の再構築と耐震化に、環境や経済的なメリットのあるDXR工法をご存じでしょうか。

DXR工法とは、曲線が多く道路幅が狭いなどの条件で開削工法・推進工法などの従来工法では管路布設ができない場合でも、長距離・急曲線施工が可能な「DXRシールド」と「PN形ダクタイル鋳鉄管」を組み合わせて布設する工法です。

「DXRシールド」は、“水道用鞆管シールド工法”として水道本管に対して鞆管口径の縮小化を実現した非開削

工法であり、経済的で優れたECO設計を可能とした工法です。

一方、「PN形ダクタイル鋳鉄管(対象呼び径700~1500)」は、狭い鞆管内での運搬及び管接続を容易なものとし、スピーディーで確実な耐震管の構築を実現します。

この組合せにより曲線が多い狭い道路でも交通障害を緩和して、基幹管路を経済的に新設・更新することが可能になります。

ご興味がございましたら、どうぞお気軽に各営業担当までお問合せください。



DXR工法を採用された事業体様をご紹介します

長崎県 佐世保市様

佐世保市水道局様では、配水本管布設替工事においてDXR工法（PN形ダクタイル鉄管φ700）をご採用されました。工事対象の水道施設は、明治40年に給水を開始された施設であり、また、佐世保市様にとって最重要の水道施設であることから、配水本管の更新を喫緊の課題とされていました。今回の工事は、既設配水本管のほかに下水道管、ガス管及び通信ケーブル管等が多く埋設された幅員が狭い路線において、国道横断、鉄道横断及び河川横断等の施工上の制約がありました。そのため非開削工法の中でも、長距離施工が可能であり、かつ、「急曲線に対応」し「鞆管口径の縮小が図れて経済性にも優れた」DXR工法をご採用され、約1600mの老朽管をPN形φ700（シールド呼び径1000mm）にて更新されています。

本年1月に本管工事を終了された佐世保市水道局様からは「斜面都市である本市においては地形的に条件が厳しく、開削や推進等の従来工法では施工が困難な路線の更新が課題でありました。今回、DXR工法を採用し、これまで困難であった路線においても基幹管路の更新を図ることができました。今後も同工法を活用するなどし、次の100年に向けて管路の更新を進めていきたい。」と高い評価を頂いております。

開削工事が困難な基幹管路の更新に、是非『DXR工法』をご検討ください。